

# JAPAN PLATFORM

SUMMARY REPORT : SICHUAN EARTHQUAKE RELIEF PROGRAM

ジャパン・プラットフォーム  
中国四川地震被災者支援報告書

NOVEMBER 2009

 JAPAN  
PLATFORM



## 目次 Contents

目次	2
謝辞&支援概要	3
JPFの機能	4
これまでの活動実績	5
中国四川地震被災者支援の流れ	6
企業・団体との連携	8
具体的な連携事例	9
支援企業・団体からのメッセージ	10
中国四川地震被害者支援 支援者一覧	11
実施事業紹介	12
評価と提言	14
中国四川地震被害者支援 事業一覧	15
Functions of JPF and Activity Record	16
Flow for Sichuan Earthquake Relief Program	17
Introduction to Projects Conducted	18

## 謝 辞

2008年5月12日14時28分(現地時間)、中国四川省を震源とするマグニチュード8.0の地震が発生いたしました。行方不明者を含み87,000人以上の方々を命を落とし、500万人が家を失ったとされる大災害でした。

直前にミャンマーで発生したサイクロンに続く災害ではございましたが、経済界をはじめとするたくさんの皆様の厚いご支援・ご協力により、政府支援金による初動対応・緊急支援から時を空けずに、民間資金による復旧・復興支援を実施することが可能となりました。震災直後の物資配布を中心に、心のケアなど他分野と組み合わせた JPF の支援は、被災された方々からも多くの感謝の言葉を賜りました。

ご支援をお寄せくださった皆様に、被災者の方々、現地で活動を行いました NGO に代わり、衷心より御礼申し上げます。

活動の内容は、当報告書にてご報告させていただきます。どうぞ忌憚のないご意見、ご指導を賜われましたら幸いです。

ジャパン・プラットフォームでは、自然災害や紛争による被災者のために、より良い支援を目指し、これからも尽力して参る所存です。今後ともご支援、ご協力のほど、お願い申し上げます。

2009年11月吉日

特定非営利活動法人(認定NPO法人)

ジャパン・プラットフォーム

代表理事 長 有紀枝



## 支援概要

### PROGRAM SUMMARY

事業期間	:	2008年5月～2009年11月
資金規模	:	1.8億円余
総事業数	:	17事業(モニタリング事業含む)
活動団体数	:	6団体
支援者数	:	455件(企業・団体・個人)
Term	:	May 2008 ~ Nov 2009
Fund	:	¥180mil
Number of Projects	:	17 (including Monitoring)
Number of NGOs	:	6
Number of Cooperators	:	455 (Corporations, Organizations, Individuals)

ジャパン・プラットフォーム(JPF)とは、NGO、経済界、政府が協働して、市民社会と共に日本発の国際人道支援に取り組むための団体です。



JPF は日本国内においても、広報活動をはじめとして国際人道支援を活性化するためのさまざまな活動に取り組んでいます。

**広報活動1**

一般の人々にJPFの活動を知っていただくために国内での広報活動に力を入れている(写真はグローバルフェスタ JAPAN2009での一コマ)



**広報活動2**

企業と連携した広報活動も積極的に展開している(写真はソニービルの支援により実現したJPF広報活動の様子)



**研究会の開催**

大阪大学「共生人道支援」研究班と連携し「心理社会的ケア」研究会を開催



**企業との連携**

野村グループの社内チャリティコンサートにて、寄付金のご支援を頂戴



## 2000年の発足以降、30の国や地域で、 総額104億円による456の支援事業を実施してきました。



### 展開中の事業

●フィリピン水害被災者支援	2009年10月～実施中	8事業	0.34億円
●スマトラ島西部パダン沖地震被災者支援	2009年10月～実施中	13事業	0.98億円
●スリランカ北部人道支援	2009年2月～実施中	12事業	2.1億円
●中国四川地震被災者支援	2008年5月～実施中	17事業	1.59億円
●ミャンマー・サイクロン被災者支援	2008年5月～実施中	32事業	9.08億円
●平和構築支援パイロット事業	2007年10月～実施中	7事業	0.28億円
●イラク避難民人道支援 (ヨルダン)	2007年7月～実施中	20事業	3.61億円
●スーダン南部人道支援	2006年5月～実施中	26事業	12.13億円
●ジャワ島地震被災者支援	2006年5月～実施中	26事業	2.41億円
●イラク人道支援	2002年11月～実施中	27事業	26.57億円

### 終了済みの事業

●パキスタン北西部人道支援	2009年6月～2009年10月	3事業	0.66億円
●ジンバブエ・コレラ被災者支援	2009年3月～2009年8月	2事業	0.24億円
●パレスチナ自治区ガザ人道支援	2009年2月～2009年5月	6事業	1.37億円
●パキスタン南西部地震被災者支援	2008年11月～2009年4月	2事業	0.49億円
●インド水害被災者支援事業	2008年10月～2009年3月	2事業	0.01億円
●バングラデシュ・サイクロン「シドル」被災者支援	2007年11月～2008年5月	10事業	0.72億円
●南アジア水害被災者支援	2007年9月～2008年3月	5事業	0.91億円
●南部アフリカ干ばつ被災者支援	2007年9月～2008年10月	5事業	1.07億円
●スリランカ人道支援	2007年9月～2008年11月	5事業	0.83億円
●スマトラ島南西沖地震被災者支援	2007年9月～2008年3月	7事業	0.75億円
●ペルー地震被災者支援	2007年8月～2008年9月	8事業	0.94億円
●パキスタン水害被災者支援	2007年7月～2008年3月	10事業	1.54億円
●新潟県中越沖地震被災者支援	2007年7月～2007年12月	6事業	0.1億円
●イラク難民人道支援 (シリア)	2007年7月～2009年3月	2事業	0.02億円
●ソロモン諸島地震被災者支援	2007年4月～2007年6月	1事業	0.02億円
●レバノン人道支援	2006年9月～2007年5月	6事業	0.54億円
●東ティモール人道支援	2006年7月～2007年10月	6事業	0.72億円
●パキスタン地震被災者支援	2005年10月～2009年8月	49事業	8.39億円
●スーダン・ダルフール人道支援	2005年2月～2007年2月	7事業	3.13億円
●スマトラ島沖地震被災者支援	2004年12月～2006年2月	43事業	5.99億円
●リベリア人道支援	2004年2月～2006年5月	13事業	6.03億円
●イラン南東部地震被災者支援	2003年12月～2006年1月	22事業	2.96億円
●南部アフリカ緊急農業復興	2002年8月～2003年2月	5事業	1.44億円
●アフガニスタン人道支援	2001年9月～2004年8月	33事業	6.54億円
●モンゴル雪害支援	2001年1月～2001年2月	1事業	0.02億円
●インド西部地震被災者支援	2001年1月～2002年3月	9事業	0.16億円

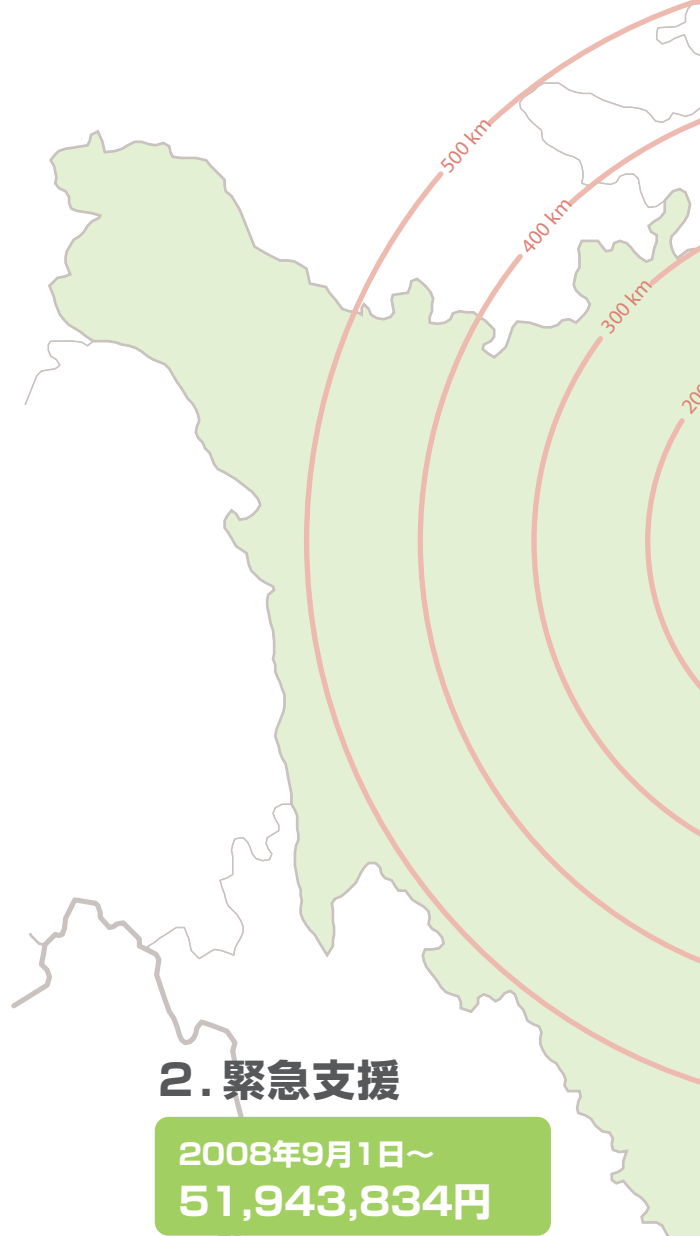
TOTAL

総事業数：456事業

総額：約104億円

2009年11月現在

必要とされる支援を、  
必要な時に、必要な人々へ届けました。



死者 : 69,227人  
 行方不明者 : 17,923人  
 負傷者 : 374,643人  
 出所: 新華社通信(2008年9月18日)

マグニチュード : 8.0  
 発生日 : 2008年 5月 12日  
 発生時刻 : 14時 28分  
 (日本時間: 15時28分)  
 出所: 中国地震局(2008年5月18日)

## 1. 初動調査・対応

2008年5月25日～  
67,335,981円

## 2. 緊急支援

2008年9月1日～  
51,943,834円



発災(2008.5.12) — 出動発議(2008.5.22)

### NGOによる支援の種類

初動調査	ADRA, Support for People's Relief
物資配布	ADRA, Support for People's Relief, Support for People's Relief
合同調査	JAPAN PLATFORM, ADRA, Nicco, Save the Children
越冬支援	Nicco
心のケア	Save the Children
モニタリング・評価	

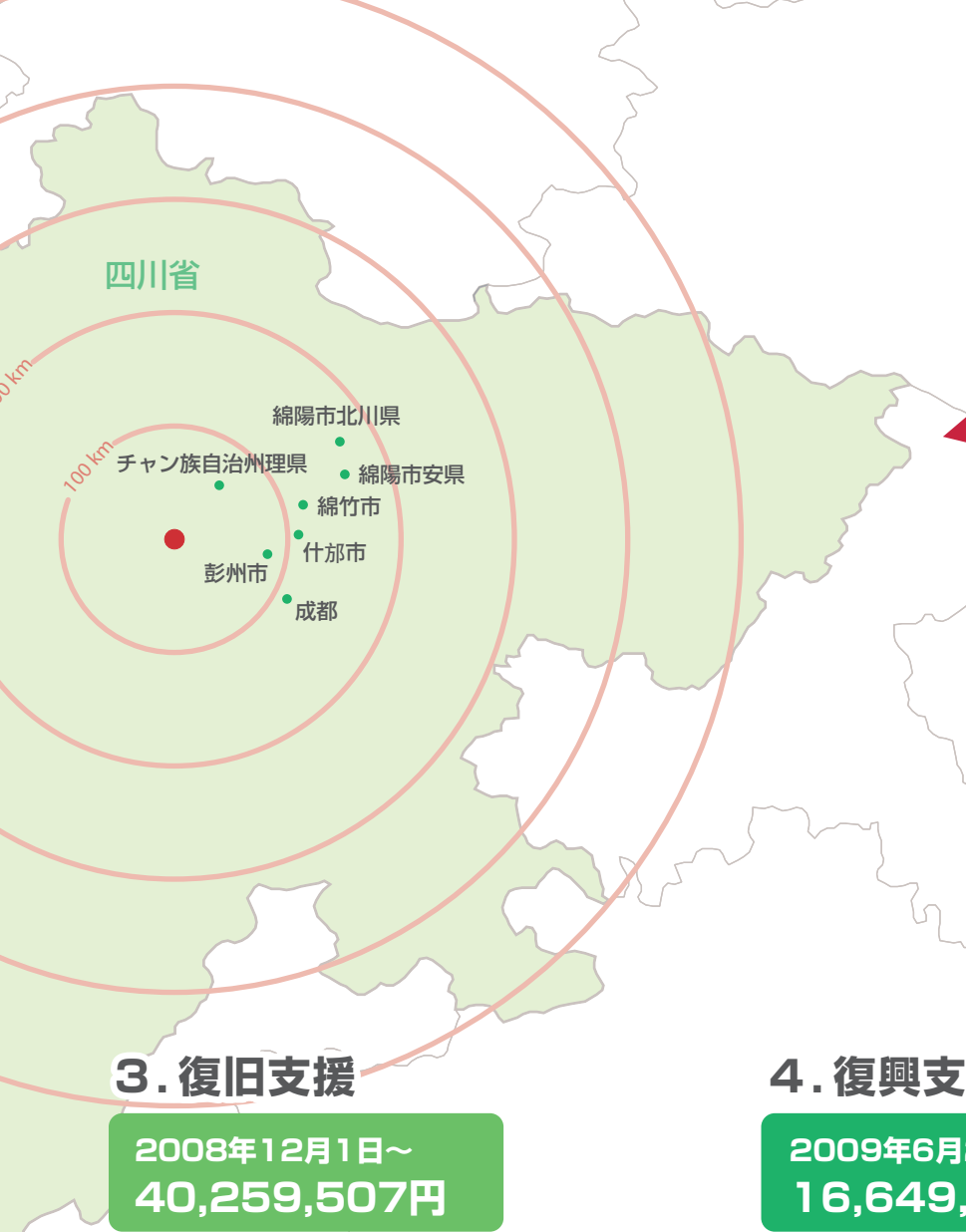


**初動調査・対応**  
 地震直後に現地入りし、被災状況の確認と支援ニーズを調査するSCCスタッフ  
 ©SCC



**緊急支援**  
 荷降ろしされる支援物資。1回目は20tトラック2台分、2回目は6台分の物資を配布した  
 ©NICCO

※JPF事業終了後も、自己資金や他助成金により現地での事業を継続予定。



### 3. 復旧支援

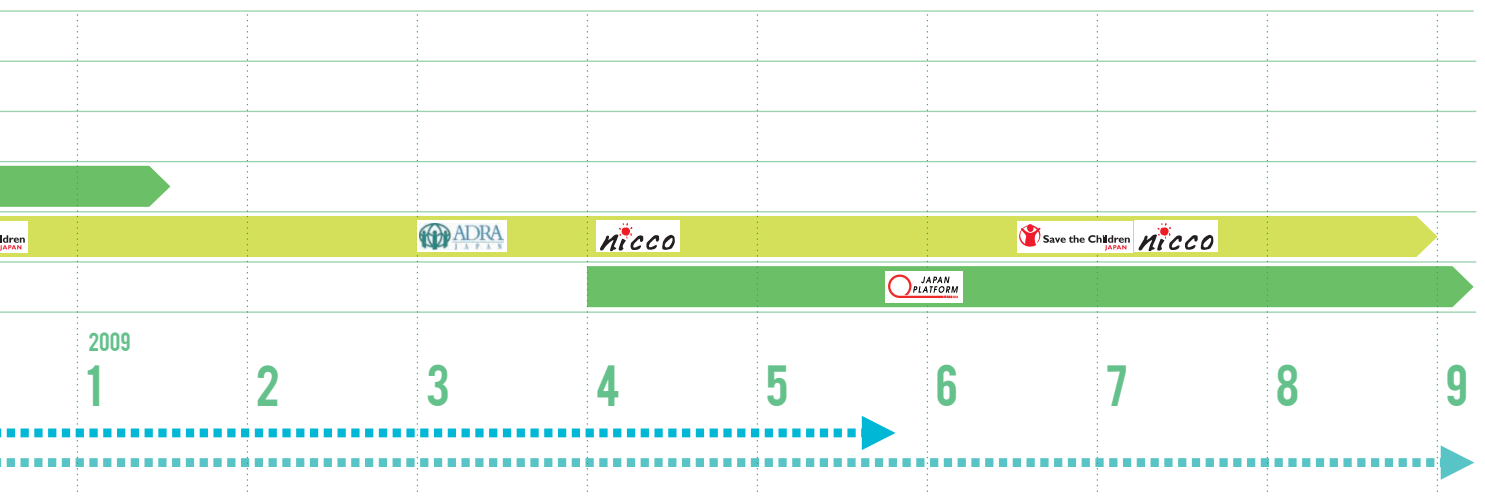
2008年12月1日～  
40,259,507円

### 4. 復興支援

2009年6月25日～  
16,649,371円



事業地モニタリング・評価(2009.5.21～6.2)



#### 復旧支援

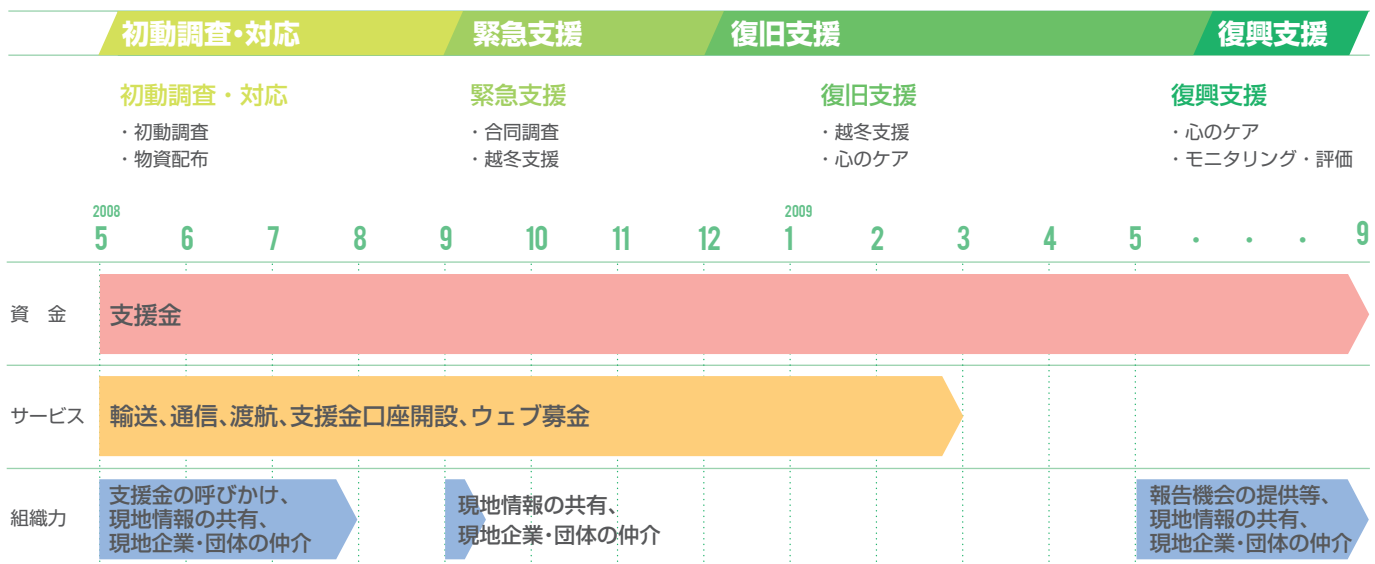
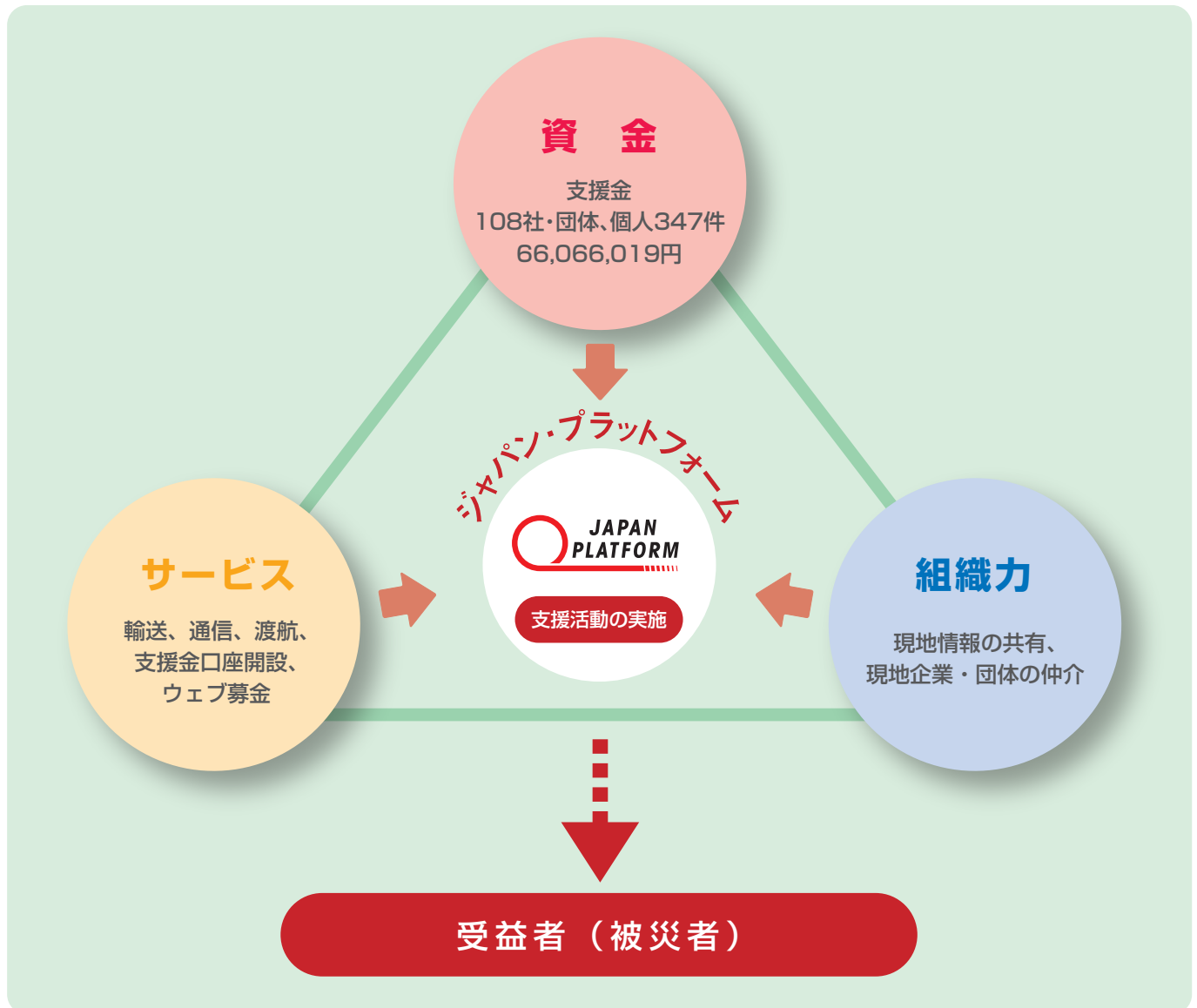
描画ワークショップの様子。個人制作に引き続き、集団制作を実施  
©NICCO



#### 復興支援

NICCOスタッフがボランティアのトレーニングを指揮。ボランティアも熱心に参加した  
©NICCO

企業・団体の持つ多様なリソースを活用した支援を実施しました。





## 成都日本商工クラブ 様

### 現地の日本企業や政府機関と NGO との連携促進のご協力

成都日本商工クラブは、日本商工会議所 国際部の紹介を経て2008年6月のADRA Japan様の被災地訪問に関係して、当時の弊クラブの役員企業（成都伊藤洋華堂、成都神鋼建設機械、伊藤忠商事四川事務所、豊田通商（上海）成都事務所）へのご訪問の段取りとその情報収集のお手伝い、そして四川省外事弁へのご訪問の段取りをさせて頂きました。また 9 月には、JPF の合同調査時のご訪問の際にも副会長企業（伊藤忠商事四川事務所）並びに弊クラブ事務局で情報交換をさせて頂いております。

2009 年は、4 月より NICCO 様が現地で活動されていた際に、8 月まで毎月の活動報告を弊クラブ会員へ配信、総会へのご参加等の段取りと手配をさせて頂きました。また、5 月末の JPF モニタリング・評価にてご訪問の際にも、弊クラブ役員企業を交えた情報交換の場のセッティング、そして四川省外事弁へのご面談、四川省対外友好協会へのご挨拶を段取り致しました。

弊クラブの機能が活用され、被災地への迅速な支援の一助となっていれば幸いです。



©JPF

## ユナイテッドピープル株式会社 様

### 支援・広報活動へ進化する Web 技術を活用

子どもたちに、子どもらしい夢を描いて欲しい。全ての人と共に幸せになれるような社会創りに貢献したい。そのために私は何ができるのか。

私は得意分野である IT のノウハウを使い、支援のプロである NGO にお金が流れる仕組みを作ろうと、募金サイト「イーココロ！」を 2003 年に立ち上げました。

JPF はサイト立ち上げ直後の 2003 年 4 月に加盟し、その後、パレスチナ自治区ガザ危機や中国四川地震などの際に、サイト内で行う緊急募金キャンペーンに参加してきました。「イーココロ！」は募金活動に関心の高い市民と寄付を募りたい NGO が出会う場です。中国四川地震の際には、JPF に募金活動の場を提供し、また寄付者への活動報告など広報機会も提供してきました。

Web 技術は今も進化を続けており、PDF 会報誌導入によるコスト削減や環境配慮、活動の速報として機能する Twitter など、NGO 活動に活かして頂きたい点はたくさんあります。JPF には、より効果的な支援活動および国内外における広報活動のために、このような Web 技術を役立ててほしいと考えています。



©ユナイテッドピープル株式会社



関根 健次 様  
ユナイテッドピープル  
株式会社 代表  
(イーココロ！運営会社)

## 独立行政法人国際協力機構（JICA）中国事務所 様

### 日中 NGO を橋渡しする NGO-JICA ジャパンデスク

四川大地震発生後の 2008 年 9 月、JPF さんが実施された被災者支援合同調査を通じて、JICA 中国事務所から JPF 参加団体の NICCO さんに、中国国際民間組織国際合作促進会（CANGO）を紹介させて頂きました。

そのかいもあって、NICCO さんが CANGO 四川省支部を現地パートナーとする協力がまとまり、被災地での活動につなげることができました。また、協力開始後も NICCO、JICA がそれぞれ実施する被災地支援について情報共有を随時行い、お互いの活動の参考とすることもできました。

JICA 中国事務所では、日中 NGO 間の協力促進のための「NGO-JICA ジャパンデスク」を設置し、日中 NGO 活動の情報発信、中国内で活動される NGO との各種相談、JICA 草の根技術協力事業に関するサポートなどを行っています。ご

相談、情報交換などいつでも歓迎いたしますので、中国での活動をお考えの際はお気軽にご連絡ください。

<NGO-JICA ジャパンデスク（中国）>  
<http://www.jica.go.jp/china/office/ngodesk/index.html>



©JPF



周迎 (Ms. ZHOU Ying) 様  
JICA 中国事務所  
NGO-JICA ジャパンデスク  
担当

## テレビ朝日ドラえもん募金 様 社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団 様 株式会社テレビ朝日 様



高井 正憲 様

社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団  
事務局長

### 支援活動が目に見えて理解できる JPF へ視聴者募金

2008年5月に発生したミャンマーでのサイクロン被害および中国四川省での地震被害に際して、それぞれテレビ朝日「ドラえもん募金」として募った義援金の一部を JPF へ寄託しました。ドラえもん募金は、テレビ朝日の視聴者の皆様がダイヤル Q2 を介して募金ができる仕組みです。

この度、視聴者の皆様からのご厚志を託す先のひとつとして JPF を選んだのは、実際に支援が現地に届くことが目に見えて理解できるからです。また、JPF は支援の多角的な展開にも取り組んでおり、現場での支援活動はもとより、活動を支えるための経済界や政府との連携など、より迅速かつ効果的な支援活動のための基盤を構築していると考えています。

JPF には今後も被災地において支援活動を展開することで、市民の皆様からお預かりした募金を有効に活用してほしいと思います。

## 富士通グループ 様



北城 萌 様

富士通株式会社  
総務部

### 被災地で確実に活動できる JPF 参加団体へ支援を決定

富士通グループが JPF を通じた被災者支援を始めたのは、2006年5月に発生したジャワ島地震からです。その後も継続的に支援を行う一方で、2007年度からは賛助会員として JPF の組織運営を支えています。

2008年5月のミャンマー・サイクロンと中国四川地震の災害発生時には、会社として寄付金を拠出しましたが、被災地の1日も早い復旧を願い、グループ従業員による募金活動も並行して実施しました。

具体的には、グループ内への広報、また、各事業所／各社からの義援金取りまとめを行いました。最終的にはグループ 107 社から予想を大幅に超える募金を集めることができました。義援金の拠出先としては、被災地で確実に活動ができる団体に対して援助・支援を行っている JPF を選択しました。

資金の用途は JPF から一括して報告を受けていますので、富士通グループの支援が被災地でどう役立っているか確認することができます。今後も、支援の成果についてさらに充実した報告を頂けることを期待しています。

## BRiO HAIR 様



高田 有理 様

広島県呉市にある美容室  
「BRiO HAIR」でスタイリストとして勤務

### お客様への感謝の想いを寄付という形に

私たち BRiO が、JPF さんを通じて寄付するに至った経緯をお話させていただきます。

昨年、BRiO の4周年記念の時に、「今年は何か特別なイベントをしよう」とみんなで話し合いました。毎年迎える周年記念日は、当たり前のことではなく、本来お客様一人ひとりのお陰で無事迎えることができるんだと、みんなで確信したのです。そのことをスタッフ全員が心より感謝し、お客様へ別の形でお礼の気持ちを表現しなければと考えました。そこで、記念のユニフォームとして制作していた T シャツを販売し、以前から興味があったボランティアで、「誰かの力になりたい」という想いに共感して頂いたお客様から、T シャツの売上の一部を寄付することを思いつきました。

その想いを生かしたものに変わって頂ける、安心してお願いできる団体を探していたところ、JPF さんの活動を知りました。昨年初めて活動内容の資料を送って頂き、少しでも寄付をさせて頂きました。

その後 JPF さんより、わざわざご挨拶に来られ、無事に私たちの想いを中国に届けたという報告も頂きました。その細やかな配慮にスタッフ一同感動し、引き続き今年もまた支援させて頂こうと思いをしました。

## 企業・団体・個人の皆様から、合計455件のご協力を頂きました。 皆様のご協力に、心より御礼申し上げます。

### 資金によるサポート

アイ・シグマ・キャピタル株式会社	株式会社大和総研証券グループシステム開発本部有志一同
株式会社アイチ	智昌加工株式会社
青森県立野辺地高等学校	千葉海運産業株式会社
株式会社阿部商店	有限会社千代田
株式会社内田屋	テレビ朝日ドラえもん募金
特定非営利活動法人Fプロジェクト	株式会社天坊
近江八幡市立島小学校6年生一同	財団法人日本数学検定協会
岡崎ロータリークラブ	日本労働組合総連合会
グッドイヤーウィングフット株式会社	富士通グループ
株式会社クレイ	BRIO HAIR
サンシングループ	株式会社文化工房
資生堂グループ従業員一同	毎日新聞社会事業団
住友生命保険相互会社支部支社有志	三井物産株式会社
積水ハウス株式会社	株式会社三菱東京UFJ銀行
全日本自動車産業労働組合総連合会	三菱東京UFJ銀行社会貢献基金
ソフトバンクグループ	医療法人社団横山クリニック
大同生命社会貢献の会	※個人の皆様からのご寄付 347件
財団法人太平洋人材交流センター有志一同	

### サービスによるサポート

イーココロ！ 「ウェブを通じたクリック募金紹介の協力」
全日本空輸株式会社 「物資輸送・支援者渡航へ協力のお申し出」
ソフトバンクモバイル株式会社 「携帯電話の無償貸出のお申し出」
株式会社日本航空 「物資輸送・支援者渡航へ協力」
日本郵船グループ 「物資輸送のお申し出」
株式会社三菱東京UFJ銀行 「義援金口座の開設（振込手数料免除）」
マイクロソフト株式会社 「ウェブを通じた募金紹介の協力」

### 組織力によるサポート

成都日本商工クラブ 「現地情報の共有等」
中国日本商会 「現地情報の共有等」
日本商工会議所 「在中国日本商工会議所への仲介」

※支援者一覧には、正式名称等の情報が確認できた企業・団体のみを掲載させて頂きました。

50音順

## 各NGOの強みを活かした支援を実施しました。

特定非営利活動法人 ADRA Japan(ADRA)

<http://www.adrajpn.org/>



神田 佐知

事業部  
中国事業担当

### 被災者から届いた感謝の言葉と 復興への意気込み

2008年6月、特に被害が大きかった什邡市、および、道路や橋の崩壊により支援が届きにくくなっていたアバ・チベット族チャン族自治州理県にて、緊急支援物資の配布事業を行いました。

「配布された蚊帳のおかげで、暑いテントの中でもなんとか風を通して眠れるようになりました」「遠く日本から支援に来てくれて本当にありがとう。子どもたち、孫たちの代にもこの事を語っていくよ」という感謝の言葉をたくさんいただきました。

2009年3月からは、被災者の「心の相談員」の育成を目的としたトレーナー育成事業を実施しました。研修参加者のほとんどは自身も被災者であり、心に傷を負っています。しかし、「自分たちで復興していくんだ」という力強さを感じました。研修に参加した教師からは、「心のケアの必要性を感じていたが、今まで学ぶ機会がなかった。同僚とも共有し、生徒たちとも地震での経験を少しずつ話し合っていきたい」との声を聞き、事業の意義を感じました。

#### 感謝の言葉

皆様からのご支援に、被災地では多くの方が「ありがとう」と力強く手を握ってくださいました。多くの場所で拍手の中、迎えられました。そして、子どもたちが笑顔を見せてくれました。これらはすべてご支援くださった皆様に贈られたものです。ADRA が使命としている「人間としての尊厳の維持と回復」のための事業を無事に実施することができたことを、ご協力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



蚊帳を手に笑顔を見せる被災者の女性  
©ADRA



「心の相談員」の研修の様子  
©ADRA

社団法人 日本国際民間協力会(NICCO)

<http://www.kyoto-nicco.org/>



池田 祥規

海外事業部  
中国、ヨルダンでの事業に従事

### JPFの柔軟な仕組みで実現した機動的支援

2008年11月から2009年1月まで、極度重災区(※1)である綿陽市にて、越冬支援として毛布や冬用衣類などの物資配布事業を実施しました。

また、2009年4月から約5ヶ月間は、極度重災区あるいは重災区とされる綿陽市、彭州市、什邡市にて、子どもたちが心の傷を乗り越え、復興への意識を新たにできるよう、精神科医の策定したプログラムに基づき、描画と粘土細工による心理社会的ケア事業を行いました。

広大な地域で1千万人以上もの人々が被災した今回の震災では、地理的環境などの要因で復興活動が困難な地域もあり、1年半が経過した今も、不便な生活を強いられている被災者がいる状態です。

外国の市民団体が中国で活動することは、現地行政機関との調整や活動基盤の確立に多大な時間を要し、想像以上の労力を費やす必要がありました。しかし、JPFという柔軟な仕組みのもと、NGOの機動性を活かした支援を無事に実施できたことをご報告いたします。

(※1) 中国政府により4つの被災程度に区分され、極度重災区および重災区はそれぞれ特に被害の大きかった地域を指す。

#### 感謝の言葉

「あなたと会えて、よかった」。心のケア事業の実施地(什邡市)にて、参加者の女の子が震災で亡くなった親友を思い出した後、涙をぬぐい、ずっと空を見上げ、私に向かってそう言いました。我々NGOスタッフは、皆様から「前線」という役割をいただき活動しており、少女からの「あなた」とはご支援いただいた皆様と同義です。今回、彼女からのこの感謝の言葉を、皆様への謝辞に代えてお伝えいたします。ありがとうございました。



大人用衣類、子ども用衣類などの支援物資を受け取る村人と、配布を待つ村人たち  
©NICCO



心理社会的ケアのワークショップで、集団制作画の内容を発表し合う子どもたち  
©NICCO



川上 哲也

理事長  
本事業では、初動調査活動  
や事業の全体的な調整を  
担当

### 日本人に対する認識を変えた支援活動

「主人や子どもを、せめて自分の手で埋葬してあげたい。でも今、現地へ行くことすらできないんです」。北川県に住んでいた女性は、そう言って泣き崩れてしまいました。多くの方が家族を失い、多くの涙が流された中国四川大地震。

支援物資が届いていない山間部の被災地へ足を踏み入れると、ボロボロの布をつなぎ合わせて作ったシートの下で、大勢の村人が雨をしのいでいるという地域もありました。家が壊れ、畜舎が壊れ、生活の場所も生活の糧も失ってしまった人たち…。

私たちがテントやビニールシートなどの配布を行うと、「日本人って恐ろしい人種だと思っていたけど、どうしてこんなに優しいの？ 本当にありがとうございます」と言って、涙を流しながら、いつまでもいつまでも手を合わせて見送ってくれた女性もいました。

今回の事業は、被災者の生活を改善するだけでなく、彼らの日本人に対する認識を変えることにもつながったのではないかと考えています。

#### 感謝の言葉

ご支援くださった皆様、本当にありがとうございました。今回の事業では、中心的目標である「被災者の生活改善」を進めることができただけでなく、歴史認識などからくる「日本人に対する感覚」にも変化をもたらしたのではないかと考えています。今後も、JPFに対するご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



支援の届きにくい山間部  
で配布されたテント  
©SCC



手を合わせて支援への  
感謝を表す被災者の女性  
©SCC



志茂 雅子

事業部 アジア I  
プログラム・オフィサー

### 子どもたちの笑顔を取り戻した心のサポート

親元を離れ、集団避難生活を送った子どもたちの精神的ダメージを軽減することを目的として、2008年12月より約8ヶ月にわたり被災者支援を行いました。

まず、子どもたちに対しては、描画や絵本の読み聞かせ、心身をほぐす体操を行う研修を実施しました。震災の影響で自己表現を困難に感じている子どもたちにとって、これらのアクティビティは自分の感情を見直す機会となります。

また、子どもが安心した生活を送るためには大人のサポートが不可欠という考えのもと、コミュニティの大人に対して子どもの気持ちを理解するための研修を行いました。

2009年5月には、「被災1周年記念フォーラム」も開催しました。フォーラムには600人の子どもたちが集まり、スピーチやパフォーマンスを通して明日への意気込みを発表しました。

事業を実施する中で様々な困難もありましたが、子どもたちが徐々に笑顔を取り戻す姿に励まされ、私たちスタッフも全力で支援に取り組みました。

#### 感謝の言葉

本事業は、JPF に集まりました民間資金をはじめとする皆様のご支援により、実施させていただきました。皆様のサポートにより、2,700名以上の子どもたちと、子どもたちを支えるコミュニティを支援することができました。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。



グループに分かれて描画に  
取り組む子どもたち  
©SCJ



絵本の読み聞かせに  
みんな夢中！  
©SCJ

## 今回の支援事業で得た教訓を、次へとつなげます。

### モニタリング・評価概要

※肩書は当時、敬称略

派遣者 : 藤森和美 武蔵野大学人間関係学部 教授  
板倉純子 JPF 事務局 事業部員

調査地 : 北京市、四川省成都及び事業実施地域

調査期間 : 2009年5月21日～6月2日

調査内容 : 事業地視察 (ADRA、NICCO、SCC、SCJ) 情報交換等 (在北京日本大使館、中国紅十字会、四川省国際民間組織合作促進会、成都日本商工クラブ、日本赤十字社四川事務所、四川省外事弁公室、四川省対外友好協会、JICA 中国事務所) 被災家庭訪問 (7 家庭)

合同調査の際に行われた  
NGOと在北京日本大使館との意見交換  
©JPF



心のケアのトレーニング研修  
参加者への聞き取り調査  
©JPF

## 主な評価

### 国家間の民間交流

日中両国の複雑な関係の中で、日本のNGOの支援を中国側が受け入れ、現地では高い評価と満足を得た。その過程には多くの公的機関や民間機関、個人の努力が払われたが、JPFならではのシステムが有効に活かされた結果だと言える。

### 心理教育の普及

中国では地震後の被災者に対する心のケアの情報や方法が不十分な側面がある。そうした中、JPF参加団体が実施した急性ストレス障害の知識の提供は、災害後の人間が感じる不安や恐怖、フラッシュバック、感情の押し込みなどの体験を理解することに役立った。

### JPF助成スキームの柔軟な対応

自然災害の場合、通常、政府支援金を活用できる事業の期間は半年と定められているが、災害の規模やニーズを鑑み1年まで延長した。その結果、半年後も政府・民間両資金を活用したNGOの支援活動が可能となった。こうしたJPF助成スキームの柔軟性は高く評価できる。

## 専門家の視点

### 心理社会的ケアにおける効果測定的重要性

海外での人道支援として心のケア分野の事業を実施する際、何を目的とし、どのように方法を定め、対象者を選び、活動を実施し、効果を抽出するかについて、JPFならびに事業実施NGOのコンセンサスが重要になる。量的なアンケート調査で示すのか、質的な変化を記述するのか、それを評価として良いのか、議論の必要性を感じた。

心のケアの効果を測定するために、NGO側に専門的な知識が要求され、結果として時間と労力が割かれることが良いのだろうか問いたい。しかし一方で、「心理社会的ケア」と名乗る活動の中に、核となる精神保健の専門家が不在で行われることにも疑問が残る。

今後、NGOが心のケアの支援を実施する際には、スタッフがまずその基礎を学び、さらに精神保健の専門家(有資格者)が、活動の方法や被災者のメンタルヘルス、さらにスタッフのメンタルヘルスも含めてリーダーシップを取ることを、期待するところである。

## 主な提言

### 現地語の資料の準備と整備

本事業では、ワークショップなどの資料に対する理解が不十分なために、参加者の習熟度に影響が見られた。今後は、現地で支援を開始するまでに、現地語の配布資料を準備し内容を整備するなど、さらなる裨益者の理解の促進に努める必要がある。

### 事業実施前の被災状況把握の徹底

例えば、心のケア事業においては、支援対象となる子どもの被災程度(家屋の損壊程度)や喪失体験(家族や友人の死)を詳しく把握したうえで、事業を実施する必要がある。事業実施時の子どもの反応だけでは、健康の回復・促進の予測が難しいことに留意することが望まれる。

### 専門家によるインプットの活用

モニタリング・評価を実施した際、JPFでは初めて、心のケア分野の専門家の同行が実現した。ここで得られた貴重な提言や評価、また、支援事業からの学びを次へと生かし、経験の蓄積が行われていくよう、JPF事務局にはフォローアップが求められる。



藤森 和美氏

武蔵野大学人間関係学部・教授  
臨床心理士/博士(人間科学)  
日本トラウマティックストレス学会・副会長・理事

事業期	団体名	事業名	実施期間	財源	当初予算額	
初動 調査	ADRA	中国四川省における地震被災調査	始期: 2008年5月25日 終期: 2008年6月3日	政府	¥2,041,367	
	JAFS	中国四川大地震被災者緊急支援のための初動調査	始期: 2008年5月25日 終期: 2008年5月29日	政府	¥956,389	
	SCC	中国四川省における地震被災調査	始期: 2008年5月26日 終期: 2008年5月29日	政府	¥621,660	
	対応	ADRA	中国四川地震被災者への物資配給事業	始期: 2008年6月4日 終期: 2008年7月31日	政府	¥55,531,905
		SCC	中国四川地震被災者支援	始期: 2008年6月20日 終期: 2008年7月4日	政府	¥3,366,800
		SCC	被災者支援物資配布事業	始期: 2008年7月11日 終期: 2008年7月23日	政府	¥4,817,860
		小計:6事業		政府 民間	¥67,335,981 ¥67,335,981 ¥0	
緊急	JPF	中国四川地震被災者支援事業合同調査	始期: 2008年9月1日 終期: 2008年9月16日	政府	¥1,118,540	
	ADRA	中国四川地震被災者支援事業合同調査	始期: 2008年9月2日 終期: 2008年9月9日	政府	¥942,392	
	NICCO	中国四川地震被災者支援事業合同調査	始期: 2008年9月2日 終期: 2008年9月13日	政府	¥817,804	
	SCJ	中国四川地震被災者支援事業合同調査	始期: 2008年9月2日 終期: 2008年9月13日	政府	¥1,213,141	
	NICCO	綿陽市における越冬支援物資配布事業	始期: 2008年10月31日 終期: 2009年1月13日	政府	¥47,851,957	
			小計:5事業		政府 民間	¥51,943,834 ¥51,943,834 ¥0
復旧	ADRA	社会心理ケア研修	始期: 2009年3月1日 終期: 2009年6月30日	民間	¥13,624,380	
	NICCO	四川地震被災者に対する心理社会的ケア事業	始期: 2009年4月2日 終期: 2009年6月26日	民間	¥8,768,687	
	SCJ	集団避難した子どもたちの心理社会的ケア事業	始期: 2008年12月1日 終期: 2009年6月24日	民間	¥17,866,440	
		小計:3事業		政府 民間	¥40,259,507 ¥0 ¥40,259,507	
復興	SCJ	集団避難した子どもたちの心理社会的ケア事業(2期)	始期: 2009年6月25日 終期: 2009年8月26日	民間	¥11,750,000	
	NICCO	四川地震被災者に対する心理社会的ケア事業	始期: 2009年7月1日 終期: 2009年8月31日	民間	¥4,899,371	
		小計:2事業		政府 民間	¥16,649,371 ¥0 ¥16,649,371	
モニタリング	JPF	中国四川地震被災者支援 モニタリング・報告書作成事業 ★	始期: 2009年4月1日	政府 民間	¥3,505,600 ¥2,210,000	
		小計:1事業		政府 民間	¥5,715,600 ¥3,505,600 ¥2,210,000	
		合計:17事業		政府 民間	¥181,904,293 ¥122,785,415 ¥59,118,878	

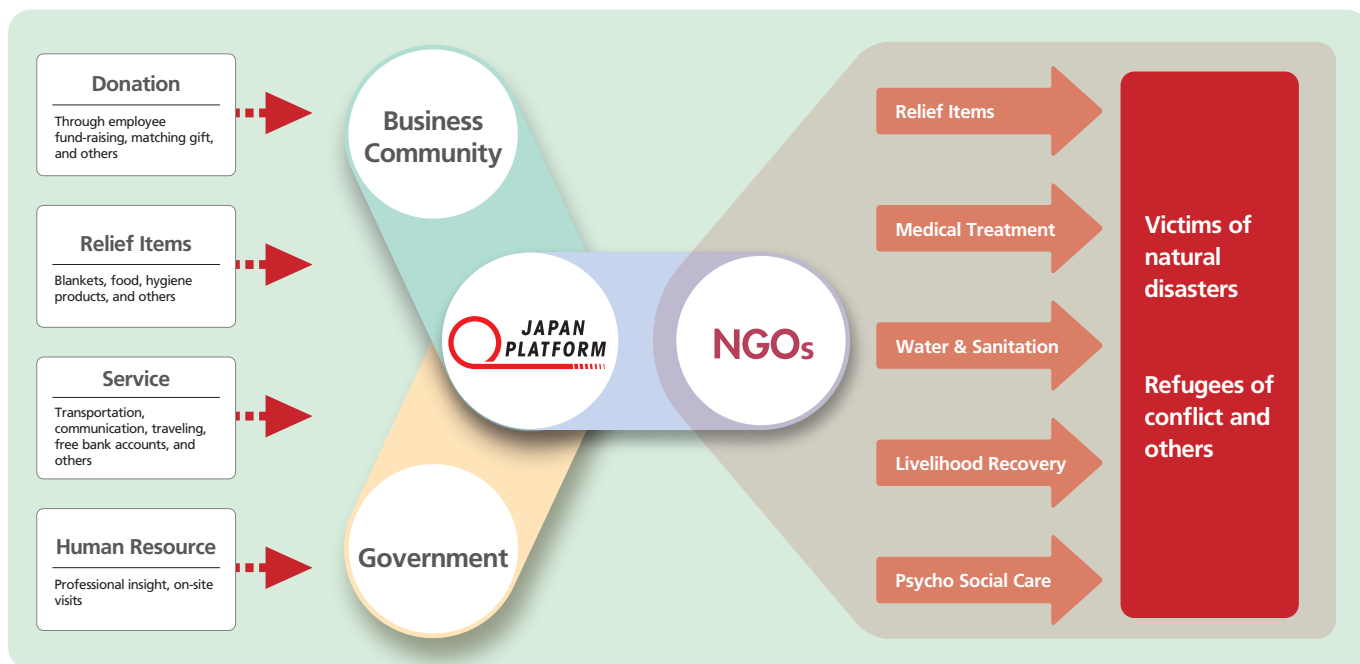
※ 現在取りまとめ中の事業があるため、当初予算額のみ掲載。

※ ★の事業は現在取りまとめ中。

※ 最終会計報告は全事業終了後、JPF ウェブサイトにて掲載予定。

※ 事業名については、契約書記載のものとする。

Japan Platform (JPF) is a Japanese organization in which NGOs, business community, and the government collaborate together with civil society to provide international humanitarian aid.



JPF conducts many activities such as public relations to vitalize international humanitarian aid in Japan.



**Public Relations**

We raise awareness of JPF's activities among the public. (The picture is a clip from Global Festa Japan 2009.)



**Workshops**

Collaboration with the Coexistence Humanitarian Aid Research Group at Osaka University to conduct the "Psycho Social Care" Workshop.



**Collaboration with Corporations**

Receiving donation support from intra-company charity concerts held by Nomura Group.

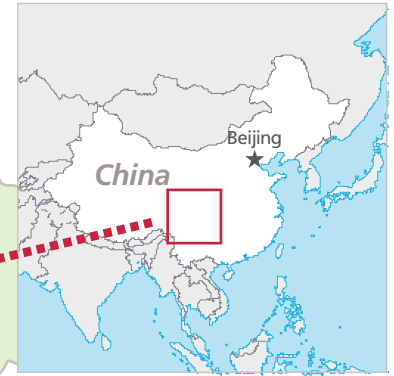
Since its establishment in 2000, JPF has funded 10.4 billion Yen to implement 456 relief projects in 30 countries and regions.



As of November 2009



We provided the necessary assistance, at the right time, to the right people.



- Beichuan County, Mianyang City
- Anxian County, Mianyang City
- Deyang City
- Shifang City
- Pengzhou City
- Chengdu

Sichuan Province

Dead : 69,227 people  
 Missing : 17,923 people  
 Injured : 374,643 people

Source: Xinhua News Agency (Sep 18, 2008)

Magnitude : 8.0  
 Date of occurrence : MAY 12, 2008  
 Time of occurrence : 14:28  
 (Japan time: 15:28)

Source: China Earthquake Administration (May 18, 2008)

USD1 = 91.52 Yen

1. Initial Assessment and Response

May 25, 2008 ~  
67,335,981 Yen

Implementing NGO  
ADRA, JAFS, SCC

Type of Assistance  
Initial Assessment  
Relief Item Distribution

2. Emergency Assistance

Sep 1, 2008 ~  
51,943,834 Yen

Implementing NGO  
ADRA, JPF, NICCO, SCJ

Type of Assistance  
Joint Assessment  
Winter Relief

3. Recovery Assistance

Dec 1, 2008 ~  
40,259,507 Yen

Implementing NGO  
ADRA, NICCO, SCJ

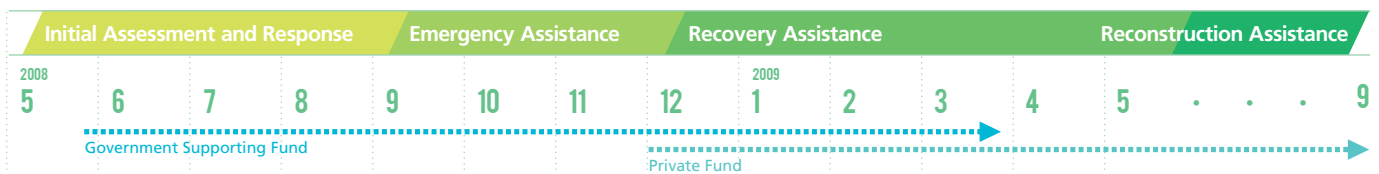
Type of Assistance  
Winter Relief  
Psycho Social Care

4. Reconstruction Assistance

Jun 25, 2009 ~  
16,649,371 Yen

Implementing NGO  
NICCO, SCJ

Type of Assistance  
Psycho Social Care  
Monitoring and Evaluation



\*Projects planned to be continued through self-funding and other supporting funds after completion of the JPF program.

Total count of 455 supports was provided through corporations, organizations and individuals. We express our utmost and sincere appreciation for all of your support.



Initial Assessment and Response  
SCC staff arriving immediately after the earthquake and confirming the devastated situation and the needs of relief. ©SCC



Emergency Assistance  
Relief Items of two 20-ton trucks and another six trucks were distributed. ©NICCO



Recovery Assistance  
Glance of the picture-drawing workshop. Children worked on group drawings after individual drawings. ©NICCO



Reconstruction Assistance  
NICCO staff leads the volunteer training. Volunteers also eagerly participated. ©NICCO

## We provided relief utilizing the strengths of each NGO.

### ADRA Japan (ADRA)

<http://www.adrajpn.org/>



Sachi Kanda

Project Department  
In charge of China Project

### Words of appreciation received from victims

On June 2008, we distributed emergency relief items in Shifang City, where the disaster was especially severe, and in Li-zhan County of the Autonomous State of Qiang tribes and Aba Tibet tribes, where relief was difficult to reach due to collapsed roads and bridges.

We received many words of appreciation such as, "Thanks for the mosquito net, I was able to ventilate my heated up tent and get some sleep," and "Thank you so much for coming all the way from Japan for assistance. I will pass on the story of help I received to my children and grandchildren."

In March 2009, we launched an education project to develop trainers who would educate "psycho social care consultants" for the victims. Most members who participated in the training were also victims themselves and had been mentally hurt. However, I felt their eagerness and energy to "rebuild on their own". A schoolteacher who participated in the training told us that, "Though I felt the necessity of psycho social care, there were no opportunities to learn about it. I want to share what I learned with my colleagues, and to gradually start a dialogue with my students about our experiences of the earthquakes." Such comment reminded us of the meaning and importance of the project we launched.

### Words of Appreciation

Many people at the site of disaster greeted us by holding our hands firmly and saying "thank you." We were welcomed in many places with applause. Children showed us their smiles. All of this is dedicated to you who provided all the support. We are deeply grateful to everyone who supported us for enabling us to fully pursue ADRA's mission of "sustaining and recovering human dignity."



Woman smiling as she takes a mosquito net.  
©ADRA



Training of "psycho social care consultants." ©ADRA

### Nippon International Cooperation for Community Development (NICCO)

<http://www.kyoto-nicco.org/>



Yoshinori Ikeda

International Project  
Department  
Involved in Projects in China  
and Jordan

### Agile support made possible through JPF's flexible mechanism

From Nov 2008 to Jan 2009 in Mianyang City, a city designated as a severe disaster region (\*), we provided blankets and winter clothing as our relief item distribution project for the winter season.

For 5 months from April 2009 in Mianyang City, Pengzhou City, and Shifang City, cities designated as either severe or extremely severe disaster regions, we conducted a psycho social care project to help children overcome their emotional pains and feel positive about recovery. This was done through a program that was designed by a psychiatrist, which utilized picture drawing and clay crafting.

The earthquake this time caused disaster for over 10 million people across a vast region. Because factors such as geographical environment made recovery efforts difficult to pursue in some regions, there are victims who still suffer inconveniences even after a year and a half from the earthquake.

Foreign private organization who wanted to perform activities in China also had to spend a considerable amount of time and energy to coordinate efforts with the local administrative body and to establish their activity base. However, I will report that the reliefs were successfully provided through utilization of the NGO's agility based on JPF's flexible mechanism.

(\*) The government of China created four categories of districts based on the severity of the disaster, and the severe and extremely severe disaster districts are areas where the damages were especially severe.

### Words of Appreciation

"It is so good that I met you." A girl who participated in our psycho social care project in Shifang City wiped her tears after remembering her best friend who passed away from the earthquake, looked up at the sky, and spoke those words to me. We as NGO staff have been given the role to act in the forefront, and the "you" whom the girl spoke of refers equally to all of you who support us. I would like to borrow her words of appreciation to express our gratitude to all of you. Thank you very much.



Villagers receiving and waiting to receive clothing and other relief items for adults and children.  
©NICCO



Children presenting to each other their group work picture at the psycho social care workshop. ©NICCO



**Tetsuya Kawakami**  
Director  
Responsible for initial assessment and overall coordination for this project.

### Relief activity that changed the perception towards Japanese people

"I want to at least bury my husband and children with my own hands. However, it is not even possible to get to where they are." The woman who lived in Beichuan County spoke those words and broke down into tears. Many people lost their families, and much tears were shed due to the Great Shichuan Earthquake.

When we set foot in the mountainous district affected by the earthquake where relief had not reached, we saw places where many villagers huddled under a cloth sheet pieced together with rags to protect themselves from the rain. People with collapsed houses, destroyed barns, and without a place to live and a way to survive...

When we distributed relief items such as tents and vinyl sheets, there was a lady who shed tears and continually thanked us saying, "I thought that Japanese people were frightening. Why are you so generous? Thank you so much!"

We believe that this project not only helped to improve the lives of victims, but also contributed to change their impressions towards Japanese people.

#### Words of Appreciation

Thank you very much to everyone who supported us. I think that this project not only served to fulfill our purpose of "improving the lives of victims," but also contributed to change their history based on impressions towards Japanese people. We sincerely ask for your continuous support towards JPF.



Tents distributed in the mountainous district where relief was hard to reach. ©SCC



Woman expressing gratitude for the relief. ©SCC



**Masako Shimo**  
Project Department Asia I  
Program Officer

### Mental support that brought back smiles to children

We provided relief for about eight months from December 2008 with the aim to lessen the mental damage of children who have lived away from their parents as part of a mass population of refugees.

First of all, we had children draw pictures and read them picture books to help unwind their mind and body. These activities provided opportunities for children who had trouble expressing themselves due to the influences of the earthquake to revisit their feelings and emotions.

Based also on the understanding that adult support is indispensable for children to feel secure, we provided training to adults in the community regarding understanding children's feelings.

We also hosted the "First Anniversary of Disaster Forum" in May, 2009. 600 children participated in the forum, and expressed their eagerness for a better tomorrow through speeches and performances.

We faced a variety of challenges while conducting our projects, but were encouraged by seeing children gradually regaining their smiles. We thus were able to put out our very best to provide our support.

#### Words of Appreciation

We were able to conduct our projects through private funds collected by JPF and through the support from everyone around us. Through all of your support, we were able to provide relief to over 2,700 children and their communities. We express our sincere appreciation to everyone who assisted us.



Children got into small groups to draw pictures. ©SCJ



Children listening attentively when we read them picture book. ©SCJ

BRIDGING TO THE RECOVERY  
**JAPAN PLATFORM**

日本語 <http://www.japanplatform.org>

English <http://www.japanplatform.org/E/>



特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）

ジャパン・プラットフォーム

〒100-0004

東京都千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル 2 階 266 区

TEL : 03-5223-8891 FAX : 03-3240-6090

Approved Specified Nonprofit Corporation

**JAPAN PLATFORM**

Otemachi Bldg. 2F-266, 1-6-1 Otemachi Chiyoda-ku,

Tokyo 100-0004 Japan

TEL : +81-3-5223-8891 FAX : +81-3-3240-6090

編集協力： 有限会社パワーボール

デザイン： 高嶋 純子

翻訳： 株式会社トランスボーダーズ

印刷： 昭栄印刷株式会社